

令和6年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立高野尾小学校	校長名	伊藤 暢浩
児童・生徒数	50 名	学級数	6 学級
		教職員数	24名

1 めざす学校像

家庭・地域との協働で、子どもを守り育てる地域立の学校

- 学ぶ楽しさ、ともに生きる楽しさが尊重される学校
- 創意と活力に満ち、楽しさと厳しさを併せもつ学校
- 地域力を活かした、安全・安心な学校

教育スローガン

子どもたちに
夢・笑顔・やる気・元気を！

2 現状と課題

本校の児童は、全体的に明るく素直で落ち着いており、勤労生産的な活動にも熱心に取り組む。基本的な生活習慣の形成や規範意識・倫理観の醸成に関しても概ね問題は見られない。学校支援本部との協働による、学校を拠点とした「まちづくり」は17年目になる。保護者や地域住民の学校教育への関心は高く、年間を通して様々な分野で大きな支援を得ている。

特に、「夢をもち、自分らしい生き方ができる人間を育てる」ことをねらいとしてキャリア教育に力を入れており、主体的に判断し行動する実践力や、新しいことに挑戦しようとする意欲・態度も育ってきている。今後も、学習面・精神面でのきめ細かな指導や支援を行うことで、児童の自主性の伸長を一層図りたいと考えている。

3 重点目標

- (1) 自立した社会人になるための基礎をつくるキャリア教育を推進する。
- (2) 人権尊重の精神を基調にした心の教育を充実する。
- (3) 保護者や地域住民と学校経営方針を共有し、地域ぐるみで子どもを育てる。
- (4) 校内研修の充実を図り、教員の力量を高める。

4 具体的な行動計画

- 1) 自立した社会人になるための基礎をつくるキャリア教育を推進する。
 - ・自ら課題を見つけ、考え、話し合いながら学び合える授業づくりに向け、授業改善に取り組む。
 - ・ICT 機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進める。
 - ・高野尾タイム（朝の学習時間）、家庭学習・自主学習の取組により、基礎学力の定着を図る。
 - ・学校支援本部との協働を進め、学んだことや経験したことを学習や生活に活かす力を育成する。
 - ・朝の読書、魅力的な図書館づくり、「アウトメディアデー」や「家読」を進め、読書の習慣化を図る。
 - ・体力・運動能力の実態を把握し、子に応じた指導の充実を図る。
 - ・ノーチャイムを継続し、自ら時間を守って自主的に次の行動に取り組むことを習慣化させる。
- 2) 人権尊重の精神を基調にした心の教育を充実する。
 - ・自尊感情を育み、個性を認め合い自分や友だちを大切にできる子どもを育てる。
 - ・学年を超えて縦割り班活動を行なうことで、仲間を信頼し、仲間とともに高まり合える集団づくりに努める。
- 3) 保護者や地域住民と学校経営方針を共有し、地域ぐるみで子どもを育てる。
 - ・地域連携による「キャリア教育」の実践を、保護者や地域住民へ紹介し学校教育への理解を深める。
 - ・「自治会」及び「学校支援本部」「高野尾・農地・水を守る会」等とのつながりをさらに深め、学習支援や環境整備等のより一層の充実を図る。
 - ・「高野尾っ子見守り隊」「SOSの家」との連携を強化し、児童に係る事件・事故ゼロを維持する。
 - ・学校を拠点としたまちづくりを進めるため、ふれあい運動会、餅つき大会、音楽鑑賞会などを開催するとともに、積極的に情報の発信・収集を行い、地域に開かれた学校づくりを一層進める。
- 4) 校内研修の充実を図り、教員の力量を高める。
 - ・少人数及び複式学級を生かす効果的な授業形態について研究と実践を行う。
 - ・日常的な情報共有に努め、教職員全員で全校児童を育てていく体制を強化する。
 - ・少ない教職員による全体を見通した校務分掌組織を見直すことで、より一層機能させ、活性化を図る。
 - ・教職員が健康で安全に働けるよう、職場環境改善や勤務時間縮減に取り組む。
 - (・一人当たりの月平均労働時間外労働：30時間以下・年360時間超時間外勤務者：0人・月45時間超時間外労働者延べ人数：0人
 - ・定時退校日定時退校者：90% ○放課後開催会議の60分以内終了率：80%)